

## 令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

令和3年5月27日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語 14人

② 算数 14人

#### 5 留意事項

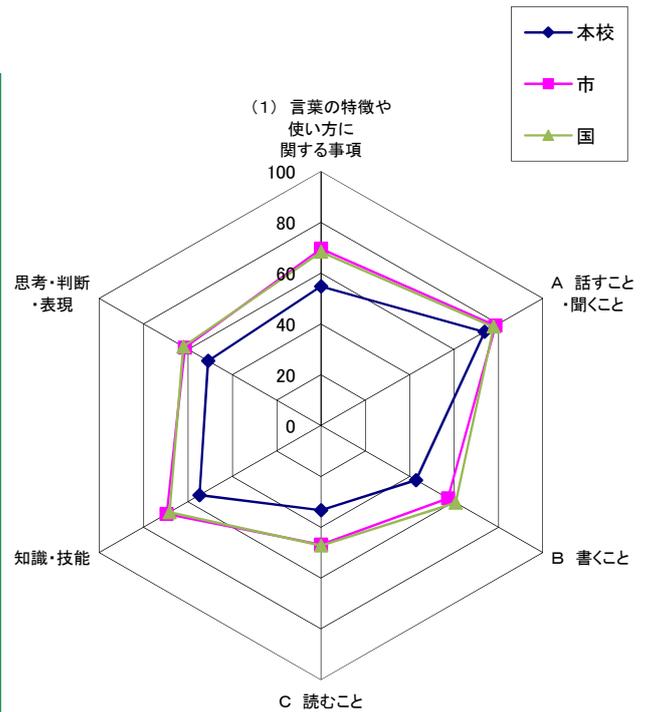
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立上河内西小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	54.8	69.6	68.3
	(2) 情報の扱い方に関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	73.8	78.7	77.8
	B 書くこと	42.9	57.3	60.7
	C 読むこと	33.3	46.9	47.2
観点	知識・技能	54.8	69.6	68.3
	思考・判断・表現	50.9	61.4	62.1
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

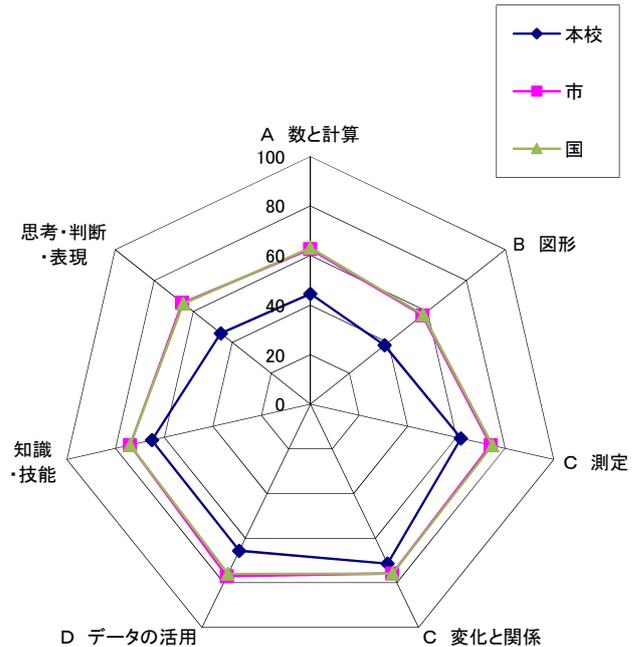
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>●「～は～より…」の使い方を適切に捉えられていない。思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う力に課題が見られる。</p> <p>●文の中における主語と述語との関係を捉えられていない。主語と述語の関係となる言葉の間に修飾語と被修飾語の関係となる言葉があり、それと混同してしまったと考えられる。</p>	<p>●言葉の意味の正しい使い分けが身に付くように、朝の学習の時間等に文作りを取り入れ、繰り返し指導する。</p> <p>●主語と熟語が離れた短文作りを取り入れる。主語と述語の関係や修飾語が捉えられるように、文を細かく区切り、確認をしていく。</p>
A 話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均より低い。他の領域よりも高い。単元末で成果物を発表する際に、1回だけで終わりにするのではなく、修正改善して複数回発表する機会を設けてきた成果であると考えられる。</p> <p>○目的や意図に応じ、資料を使って話すことができる。</p> <p>●目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考えることができていない。「はじめ」「中」「終わり」でどのように論を進めているのか捉えられていない。</p>	<p>●これまでのように、複数回発表したり、伝え合ったりする機会を設け、成果物を修正改善していく時間を確保する。また、教師だけでなく児童間でフィードバックさせていく。</p> <p>●「はじめ」「中」「終わり」などの基本的な構成が視覚的に確認できるワークシート等を準備し、構成を意識しながらスピーチ活動を行っていく。</p>
B 書くこと	<p>平均正答率は市の平均よりも低い。</p> <p>●自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考えることができていない。</p> <p>●目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができない。</p>	<p>●書く活動において、だれに対して書く文章なのか、対象を明確にさせる。主語や述語、修飾語や被修飾語の関係に気を付けて書くようにする。</p> <p>●文章内容を把握し、条件に合わせて文章を書くようにする。その際、筋道の通った文章となるように本文の対応している部分に線を引くように指導する。</p>
C 読むこと	<p>平均正答率は市の平均よりも低い。</p> <p>●目的に応じ、文章と図表を結び付けて必要な情報を見つけることができていない。</p> <p>●目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができない。</p>	<p>●文章を読み取る際に、図表を結びつけて考えられるように、要点・要旨の書き方を指導する。</p> <p>●文中の大切な言葉や接続語には線を引くことで、文章全体の内容を理解できるようにする。</p>

# 宇都宮市立上河内西小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	44.6	62.6	63.1
	B 図形	38.1	57.5	57.9
	C 測定	61.9	74.1	74.8
	C 変化と関係	71.4	75.8	75.9
	D データの活用	65.7	77.1	76.0
観点	知識・技能	65.1	74.1	74.1
	思考・判断・表現	45.9	65.6	65.1
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>●示された情報の結果について、日常生活の場面に即して判断する力に課題があり、適切に余りを処理することができていない。</p> <p>●商が1より小さくなる等分除(整数)÷(整数)の場面で、文章から正しい数量の関係が捉えられず、文章に出てくる順番通りに立式をしてしまっている。</p>	<p>・日常生活の場面を想起した問題に取り組ませるとともに、具体物を使って視覚的に捉えられるようにする。</p> <p>・除法で表すことができる二つの数量の関係を捉えて立式する文章題に取り組ませる。</p>
B 図形	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>●三角形や平行四辺形において、示されたすべての辺の長さに着目したり、誤った高さを捉えたりと立式に必要な情報を選び出すことに課題が見られる。</p>	<p>・基本図形の面積の求め方について理解させるとともに、底辺と高さの関係を確実に捉えられる技能を身に付けさせる。</p> <p>・言葉だけで理解が不十分な児童には、具体物やICTを活用することで、視覚的に図形を捉えられるようにし、他者のイメージを共有できるようにする。</p>
C 測定	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>●二つの直角三角形を組み合わせた図形の面積を求める問題において、直角三角形の組み合わせ方を変えても、面積はどれも等しいということをつまることができていない。</p>	<p>・身の回りのものの大きさを単位として、その幾つ分かで大きさを比べる活動を取り入れ、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べられるようにする。</p>
C 変化と関係	<p>平均正答率は、市の平均よりも低い、他の領域よりも高い。文章中から道のり、速さ、時間をしっかり捉えられるように数直線や図を用いて解くことを徹底してきた成果であると考えられる。</p> <p>○速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことができている。</p> <p>●速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することに課題が見られる。</p>	<p>・異種の二つの数量の関係に着目し、目的に応じて大きさを求められるようにする。</p> <p>・個々の単元に限ることなく、複数の単元が混じった状態の問題を解かせることで、既習事項を使ったり、関連させたりと問題を必要な思考回路で解くことができるようにする。</p>
D データの活用	<p>平均正答率は、市の平均よりも低い。</p> <p>○棒グラフから数量や項目間の関係を読み取ることができている。</p> <p>●帯グラフで表された複数のデータを比較し、条件に沿って説明することができていない。</p>	<p>・複数のデータについて、全体と部分、部分と部分の間の関係を調べ、データの特徴を捉えられるよう、類似問題を繰り返しなど指導する。</p>

## 宇都宮市立上河内西小学校 第6学年 児童質問紙

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○ICTの活用に関する設問では、肯定的な回答をしている児童が90%を超えており、県・国の平均を上回っている。ICTの活用が定着し、パソコン操作に抵抗なく学習に生かすことができるようになってきている。

○「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」の肯定的な回答をしている児童は71.4%と、県・国の平均を上回っている。毎時間の学習の振り返りや一日の振り返りを表現する時間を確保してきたことで、考えを社会へと広げたり深めたりすることができている。

○本校の学校課題「粘り強く学習に取り組む態度の育成」に関連する設問の「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」では、肯定的な回答をしている児童が85.4%で、8割を超えており、粘り強く学習に取り組む態度の素地が身に付いていると考えられる。

○家庭学習時間についての設問では、8割弱の児童が学年でめやすとしている1時間よりも長く実施できている。これは、市・国の平均よりも高い。高学年において、週の始めに学習計画を立て、週の終わりに振り返りを行ってきたことにより自分で内容面の充実を図ったり、それを組み立てたりする計画性が育ってきている。

●「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の設問で、肯定的な回答をしている児童は、5割であった。毎時間の授業の振り返りやテストの振り返りを通して、振り返りの習慣は付いてきたが、何のために振り返りをするのか意識できていない。振り返りの視点を持たせるとともに振り返りが次の学習につながる単元計画をしていく。

●「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか」では71.4%で、苦手なことや分からないことに粘り強く取り組む態度に課題が見られる。

●「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか」の設問では、肯定的な回答をしている児童が50%で、県・国の平均を下回っている。自分の考えをもち、自信をもって発表できる機会を多くの児童に提供するとともに、不安なことや分からないことでも、何でも話せる学級の雰囲気づくりを進めていきたい。

●「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の設問で、肯定的な回答をしている児童は42.8%と、県・国の平均を下回っている。日常生活の中で友達の考えを受け入れたり、異なる意見と折り合いをつけたりする場を捉え、共感していく。

## 宇都宮市立上河内西小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	今年度も、年度初めの懇談会で、家庭教育の重要性を学習指導主任より話し、家庭学習強化週間を年2回実施することの協力をお願いし、実施している。	家庭学習時間については、8割弱の児童が学年でめやすとしている1時間よりも長く実施できている。これは、市・国の平均よりも高い。高学年において、週の始めに学習計画を立て、週の終わりに振り返りを行ってきたことにより自分で内容面の充実を図ったり、それを組み立てたりする計画性が育ってきている。また、優れた自学学習ノートを学年だよりで掲載し、啓蒙を図っているところである。
毎時間、各授業での振り返りとテストの振り返りを実施	主体的に学習に取り組む態度を育てるために、授業のねらいに沿った振り返りの視点をもとに、振り返りを書く活動を積み重ねた。テストにおいても、分析をさせることで、次につなげられるようにしてきた。	振り返りを次の学習につなげていると回答している児童は、5割であった。毎時間の授業の振り返りやテストの振り返りを通して、振り返りの習慣は付いてきたが、何のために振り返りをするのか意識できていない。振り返りの視点をもたせるとともに振り返りが次の学習につながる単元計画をしていく。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語の「書くこと」「読むこと」の領域で国・市より低い。詳しく見ると、条件に合わせて記述することに課題が見られる。条件に対応するところの読み取りができていない。	条件を設定し、まとめの文章を書く活動を取り入れる。	国語では、要旨を書く活動でキーワードを提示し、それをういて文章を書く活動を取り入れる。他の教科でも、本時のまとめ等で、条件を設定した繰り返し書く活動を取り入れる。